

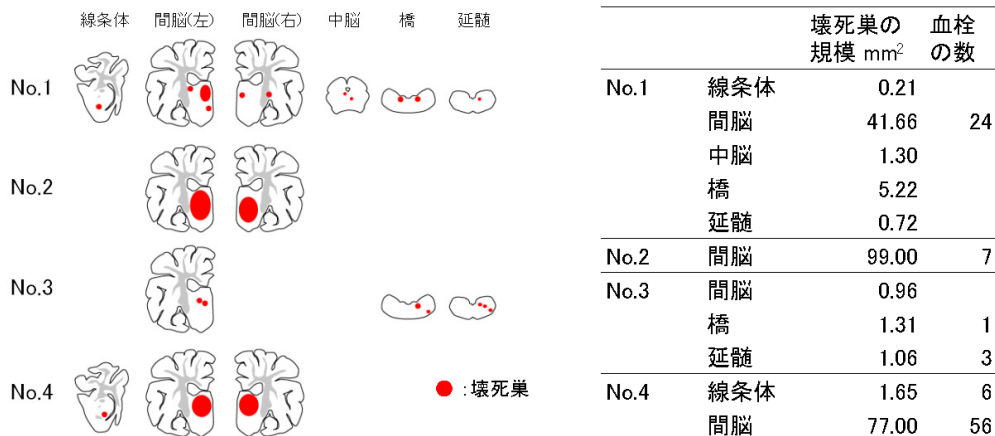
浮腫病罹患豚の中樞神経系病変

【 目的 】

Stx2e 産生性大腸菌による浮腫病は、子豚に全身の浮腫、神経症状、急死を起こします。野外例の中樞神経系(CNS)実質に軟化巣がしばしば観察されますが、同病変の正確な病理発生は不明です。ここでは、CNSに病変が存在した浮腫病罹患豚4頭を病理学的に検索し、病変の形成機序を検討しました。

【 成績の概要 】

- 材料及び方法 : 2006年2月と2009年1月に、本病が発生した県内2農場(A、B)の罹患豚4頭を供試しました。A農場由来で32日齢の虚弱豚2頭(Nos.1~2)と40日齢の死亡豚1頭(No.3)、B農場由来で37日齢の死亡豚1頭(No.4)を剖検し、全身諸組織を病理学的及び細菌学的に検索しました。
- 結果 : 4頭の胃腸壁は弛緩し、軽度ないし中等度の水腫が胃腸漿膜および腸間膜に観察されました。細菌学的に、4頭の空腸内容から $10^6 \sim 10^9$ CFU/g の大腸菌が分離され、Stx2e 遺伝子およびF18 遺伝子が検出されました。組織学的に、血管症ならびに水腫が全身諸組織に観察され、胃腸漿膜と腸間膜に好発しました。CNS の壊死巣は脳幹部に局限し、間脳(4頭)、線条体、橋、延髄(2頭)、中脳(1頭)に分布していました(図)。壊死巣は毛細血管の線維素性血栓を伴い、壊死巣の規模と血栓の数は関連していました(表)。



★ 以上の成績から、CNS 実質の壊死巣が梗塞性であることが示唆されました。

【 成績の活用 】

浮腫病罹患豚の中樞神経病変の解明

【 留意事項・備考 】

浮腫病の原因毒素が、病変の形成に関与していたかの検証が必要である。